

真生会富山病院を受診された患者の皆さま

当院は下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	急性原発閉塞隅角発作眼における高眼圧に伴う眼球形態変化とIOL度数計算精度への影響：対眼眼軸長置換法の有用性に関する症例集積研究
当院の研究責任者(所属)	真生会富山病院アイセンター（鈴木 貴文）
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	<p>急激な眼圧上昇を伴う急性緑内障発作(急性原発閉塞隅角症：APAC)を起こした眼に対しては、眼圧を下げ、視機能を守るために緊急の白内障手術を行うことが有効な治療法として確立されています。しかし、通常の白内障手術とは異なり、APAC眼では術後の見え方が術前の予測よりも遠視寄りにずれてしまうことが課題として知られています。</p> <p>近年の研究により、これは急性緑内障発作時の極めて高い眼圧によって眼球が一時的に引き伸ばされ、眼の長さが発作前よりも長く測定されてしまい、その値を用いて眼内レンズ度数計算を行うことが予測ずれの主な原因だとわかってきました。</p> <p>また、これまでの研究では、進行した白内障や網膜剥離など、眼の長さの正確な測定が困難な眼について、反対側の測定可能な眼の値を参考にした眼内レンズ度数計算を行うことで、術後の見え方の予測ずれを軽減できる可能性が示されています。</p> <p>本研究では、APAC眼の測定値の代わりに、APACを起こしていない反対側の眼の測定値を用いて眼内レンズ度数計算を行うことで、術後の見え方の予測ずれを軽減できるかを検証することを目的としています。</p>
調査データの該当期間	研究実施期間：倫理審査委員会承認日から2027年12月31日 調査データの該当期間：2009年10月1日から2024年10月31日
研究の方法(対象となる方)	① 年齢：白内障手術同意取得時において年齢が50歳以上の方 ② 性別：不問 ③ 入院／外来：不問 ④ 白内障術後1か月以上の診察歴がある方
研究の方法(使用する情報)	・患者背景：性別、入院・外来の別、年齢、合併症、現病歴、既往歴 ・眼科学的検査：白内障手術前後の視力、眼圧、角膜屈折率、等価球面度数、眼軸長、中心角膜厚、前房深度、眼内レンズ予測屈折 ・人体から採取された試料は利用しません。
試料／情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	使用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源(利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
相談・問い合わせ・苦情	電話：0766-52-6979(内線2230) 担当者：鈴木 貴文（医師）
備考	